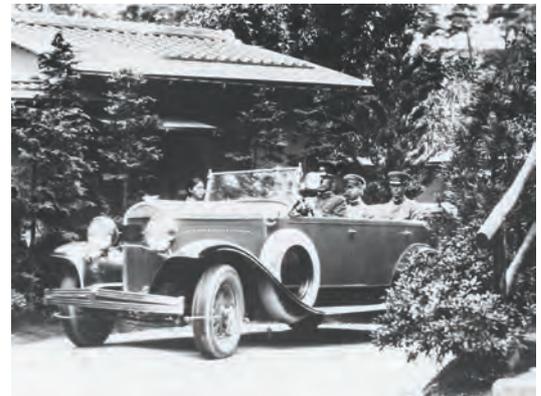




▲明治時代の絵はがき。駅鈴をデザインしたスタンプが押されています。
森のように見えるのは小高い丘で、その先は枚方村（現在の枚方元町）です。



◀道路手前から広がる敷地に万里荘がありました（伊加賀北町）。



▲「万里荘」に到着した秩父宮殿下（昭和6年）。

広がる野山に大邸宅が建っていた

伊加賀

古くから集落があり平安中期の文献「和名抄」に登場する伊加賀は、現在の菊丘町や枚方公園町などを含む広大な地域でした。

上の写真は明治時代の伊加賀村で、中央に見える鳥居をくぐって階段を登ると意賀美神社がありました。同神社は、明治42年に日吉神社、須賀神社を合祀して現在の枚方上之町に移され、残った社地は子どもたちの遊び場に。「宮さん跡」と呼んでいたね、よくチャンバラごっこをしていましたよ」と話すのは、伊加賀南町で生まれ育った細川信夫さん（84歳）。当時は野山や田畑が広がり「夏になるとカブトムシやゲンジ（クワガタ）も捕れたんですよ」と懐かしそうに振り返ります。

のどかな場所だった伊加賀には、6000坪の広大な敷地に建つ屋敷「万里荘」がありました。鉄道車両を製造する会社社長の邸宅で、数奇屋建築の格式高い建物でした。昭和6年には、昭和天皇の弟・秩父宮殿下が高槻工兵隊入隊のため1カ月間滞在。「万里荘にいらっしゃるところを、住民総出でお迎えしました。ちようちん行列も出ですごいにぎわいでした」と細川さんは目を細めます。

現在、意賀美神社跡周辺は住宅地になり、万里荘があった場所にはマンションが建ち並ぶなど大きく変わりましたが、起伏のある地形が当時の面影をしのばせてくれます。

（平成24年3月号）